

郷土資料館だより

Vol. 22. No.2

2000. 1. 1



大場 苺 稲 荷 (大場)



梅名 稲 蔵 場 稲 荷 (梅名)



新田 稲 荷 (梅名)



北沢 稲 荷 と 幟 (北沢)

中郷地域の初午

2月最初の^{うま}午の日は、^{はつうま}初午と呼ばれ、^{いなり}稲荷神社・^{おいなりさん}オイナリサンのまつりを各地で見ることができます。もとは京都の伏見稲荷大社に祀られる稲荷大神の信仰で、稲を象徴する穀物神・農耕神であり、「稲成り」の意味から「稲荷」の字が与えられるようになりました。のちに、農業神から生業守護神・医薬の神・福神へと変化し、全国各地で祀られています。

2月の初午の日に、伏見稲荷の祭神が降臨されたことより、この日が稲荷まつりになったと伝えられます。

中郷地域には、特色ある稲荷神社が多く、大場の^{ちんぴ}苺稲荷、梅名の^{おくらぼ}御蔵場稲荷・新田稲荷などはにぎやかなおまつりです。また各屋敷内にオイナリサンを祀る家も多く、初午の朝には子供たちが4色の紙を貼り継いで、「正一位^{のほり}稲荷大明神」と書いた幟を神社や家々に奉納します。それぞれの場所では「御供」といって菓子やみかんを用意し幟を奉納した子供たちに渡します。幟の数が多いほど喜ばれたものです。

大場の^{ちんぴ}苺稲荷には毎年100本以上の幟が奉納され、早朝から昼近くまで参拝の人々が次々訪れ賑わいます。珍しい名称ですが、「苺」は宝珠、「語」は縁結びの意味で、霊験あらたかな神として知られ、8月26日の例祭とともに大きなまつりとなっています。

梅名の御蔵場稲荷は、江戸時代の御蔵場(米の貯蔵所)跡にあり、かつて近くの梅名川より船で米を江戸へ運搬しました。梅名の新田稲荷は江戸時代、富士山の宝永山が噴火したとき、富士山麓から逃れ入植した人たちが、豊かな収穫を願い祀ったものです。

また北沢では明治の頃、産まれてくる子供たちが次々と流行病で亡くなりました。しかし小池家の子供たちだけは屋敷神のオイナリサンに守られてよく育つので、生れたばかりの子供をわざと小池家の門前に捨て、小池家で育ててもらった風習がありました。小池家にはこうした家々から奉納された幟があり、初午の日に飾られます。

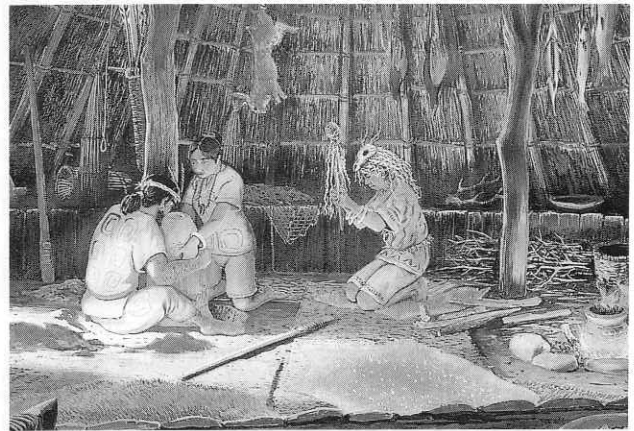
富士・沼津・三島市博物館共同企画展

「富士・愛鷹・箱根山麓の縄文時代」 三島市郷土資料館にて

開催：平成12年1月3日(月)～2月27日(日)

いま、縄文文化が世界的に注目されています。それは約1万3000年前に土器があらわれた古さと、縄文社会の意外な豊かさからです。これまで、日本文化の始まりは稲作文化とされてきました。そのため、縄文文化は狩猟採集中心の原始的なものとしてとされ、日本文化とは直接関係がないものとして顧みられず、ただ原始美術の代表としての縄文土器、土偶が取り上げられただけでした。

しかし近年、発掘技術の向上や、最新の分析手法の導入、大規模な開発にともなう発掘調査の進展により、次々と従来の考え方を覆す事実が明らかになりました。とくに、考古学に動物・植物などの生物学、物理学、科学などの自然科学系の分析方法や、文化人類学、地理学などの視点からの考古学の見直しなどが、縄文文化を見直すことに成果をあげました。また、最近では近隣諸国での発掘が進展し、日本の縄文文化が孤立した文化ではなく、周辺文化とのかかわりで成立し、その後も周辺地域と相互に影響を受けて展開したことがわかってきました。



信仰のムラ(千枚原遺跡) 想像復原図 一作画：鈴木修司

1万年以上に及ぶ縄文時代は、富士・愛鷹・箱根山麓にもそれぞれ多くの遺跡が残されています。今回の展示では、近隣各地域にある代表的な遺跡から、豊かな自然の恵みを受けながら自然と共に生きた縄文時代の人々の暮らしを紹介します。とくに、縄文時代の山の暮らし・海辺の暮らし・信仰に焦点を当て、縄文土器・石器・土偶など様々な出土遺物から、富士・愛鷹・箱根山麓に生きた縄文人の心豊かな生活—日本人の原点の暮らしを考えます。



イノシシとヘビの合体モチーフの付けられた釣手土器
(三島市^{かんのんぼら}観音洞遺跡 縄文時代中期)

—展示の内容—

- (1) 縄文の自然環境
- (2) 海辺の村—吹上遺跡(沼津)を中心に、石錘・鹿骨の釣針他
- (3) 山麓の村—天間沢遺跡(富士)を中心に、土器・石器・遺構他
- (4) 縄文人の祈り・信仰・まつり—千枚原遺跡(三島)を中心に、土偶・釣手土器・埋葬に用いられた土器・敷石住居跡 他
- (5) 富士・愛鷹・箱根山麓の縄文土器
- (6) 遺跡を発掘する



^{うめがめ}埋甕に用いられた深鉢形土器
(千枚原遺跡 縄文時代中期)

—企画展「かぶりもの」 報告—

会 期	平成11年7月24日(土)～11月17日(水)
会 場	郷土資料館 企画展示室
入 場 者 数	27,846人
展 示 内 容	1 三島の「かぶりもの」 トンボ笠・葎山笠 2 中世の「かぶりもの」 『一遍上人絵伝 三嶋大社参詣の図』より 3 「かぶりもの」の種類 冠・烏帽子・帽子・頭巾・手ぬぐい・笠 4 「かぶりもの」のうつりかわり シルクハット・山高帽・かんかん帽・ 多彩な婦人帽 5 伝統と「かぶりもの」 神官の冠・烏帽子・僧侶の帽子・角隠し 6 働く人の「かぶりもの」—現代—
展 示 資 料	資料229点、写真40点
パンフレット作成	A4版 見開き8ページ



三島で見られる神職・僧侶の『かぶりもの』



日頃お世話になっている官公機関の『かぶりもの』

平成11年度第1回目の企画展は、私たちが頭にかぶる衣服物である「かぶりもの」に焦点を当て、いろいろな種類のあるかぶりものが、どのように生れてきたか、そしてそれはなぜ生れてきたかということを探ってみました。「かぶりもの」の役割は、防寒・防暑などで頭を保護すること、儀礼のために頭に装飾するために発展したもの、これら二つの系統があることがわかりました。それが長い時代と、文化の交流から、現在私たちが見るような「かぶりもの」になっていきました。

感想帳から — 多数の感想や、イラストを寄せていただきありがとうございました。

- ★昔のぼうしや今のぼうしがたくさんあって、ふだんかぶらないぼうしがあってよかった。古いぼうしをかぶりたいなァ～。(富士市・中学生)
- ★現在、大平に住んでいます。大平でトンボ笠を作っていたとはちょっとびっくり。昔から住んでいた人に、まだ有るのか聞いてみたくなりました。(沼津市大平・主婦)
- ★みたこともないぼうしばかりで、こんなぼうしあったなんて初めて知った。(三島市・小学3年生)
- ★これだけ帽子も集まると、家にあるのもいくつか大事にする帽子もあります。
(京都府福知山市・主婦)
- ★昔、父親がかぶっていたのと同じ様なものがあり、なつかしく思いました。(三島市・S.Tさん)
- ★モガの帽子がとてもオシャレで良かったです。手ぬぐいや防災ずきんも“かぶりもの”のひとつなのですね。いがいにオモシロイ展示で楽しませていただきました。(三島市・直さん)



トンボ笠をかぶり田植え(昭和初期)

ふるさと講座

—「古道と古城めぐり」—

本年度も、「ふるさと講座」(3回連続)に多くの市民が応募し、熱心に受講しました。

第1回「箱根旧街道と山中城をたどる」

9月24日(金) 参加者30名

講師 市文化財保護審議委員長 斎藤 宏氏

山中新田施行平にある接待茶屋跡を起点として、山中一里塚を通り、西坂旧街道を歩きました。願合寺の石畳は、よく整備されているので、往時の旅人を偲ぶことができました。

山中城は、箱根西麓標高約600mにある、戦国時代末期、小田原北条氏によって「境目の城」として築城されました。ここからは伊豆北部から駿河一帯を一望でき、小田原、三島のほぼ中間で軍事的な城郭に造られています。山中城は、箱根外輪山から西方

コース：楽寿園→接待茶屋跡…西坂旧街道
…山中城→三島駅前



願合寺地区の石畳(雨上がりで足元に注意しながら)



山中城三之丸堀

に伸びる丘陵の尾根を利用して造られ、城の南北は急崖をなし、東西は溪谷と数多くの堀によって分断され防禦されています。

豊臣秀吉の小田原攻めに備え、^{だいさき}岱崎出丸など城郭を増強しましたが、天正18年(1589)3月29日の戦いには間に合わず、小田原城の防備を固めるため、山中城は城主松田康長以下4千人での守備に対し、7万余りの豊臣軍の前に数時間で落城しました。

講座当日はあいにくの雨模様でしたが、斎藤先生の解説を伺いながら、石畳を歩いたり、山中城の詳しい「縄張り」の構想を知ることができました。

第2回「三島市周辺の中世山城を歩く」

10月6日(水) 参加者32名

講師 日本考古学会会員 中野 國雄氏

^{かづらやま}葛山城(裾野市)は、室町・戦国期を通じて、駿東一帯に勢威を振るった今川氏国人衆の一人で葛山氏の本拠地です。葛山氏が平時住居した館址と戦闘に備えて築造した城址があり、居館と詰城が一对となって残る、中世城郭の形態を明確に知ることができる数少ない史跡です。

^{せんぶく}千福城(裾野市)は、南北朝以後戦国末期にいたる駿東の要城の一つで、葛山一族の居城であったと考えられます。城跡の大部分は今では畑になっていますが、城の原形は明瞭で二段構えになっており、濠跡もはっきり残っています。

コース：郷土資料館→葛山城→千福城→
大畑城→三島徳倉城→三島駅前



葛山城本丸にて

大畑城(裾野市)は、平地に突き出した丘陵を掘り割って、後方からの攻撃に備え、麓を流れる川を堀の代用にしたようです。丘陵下に現在残る土塁2mほどから屋敷跡をうかがうことができます。

三島徳倉城跡は北上公民館から上り、住宅地を通り抜けた所にあり、森に入ると本丸と見られる所に五輪塔が数基あります。

当日は、いずれも整備された城郭ではなかったので、足元がよくありませんでしたが、険しい山城の実態を知ることができました。



中世の山城の様子をうかがえる大畑城跡

第3回「三島の古道を探る」(韮山往還)

平成10月28日(木) 参加者 31名

講師 市文化財保護審議委員 鈴木 勝彦氏



玉沢・桑原の道標



コース：楽寿園⇒開田院…横穴古墳群…
多呂神明神社…稻荷山横穴群…
覚王院筆子塚…向山古墳群⇒
道標「谷田村郷中」(パサディナ
頂部)…韮山往還歩く…台崎
山神社⇒三島駅前

韮山往還は戦国時代以降、韮山城と山中城、韮山代官所と東海道山中新田を結んでいました。

今回は、往還の支道のひとつで多呂神明神社脇から、稜線の韮山往還支道を北上し、東大場分譲地へと進みました。

韮山往還本道に合流すると、旅人を案内する道標が道沿いに立っています。現パサディナ

タウン頂部に立つ道標には、韮山・加殿(修善寺)・伊東への里程が記されており、造立が文久2年(1862)であることから、江戸時代末においても韮山往還の利用が盛んであったと思われます。ここから函南町との境の道を山中城方面に上ると、餅井坂に合掌立像の道標があり、「ひがね道、はこね道」を案内しています。さらに上るとかつての玉沢村と桑原村との村境に道標があります。この道標のところで道は分岐し「にらやま道 くわはら道」を指しています。今回の最終地点、台崎山神社には庚申供養塔があり、この側面に「にらやま道 たまざわ道」と推測できる文字が刻まれています。

第3回目にして天候にも恵まれ、無事に今年度の「ふるさと講座」を修了しました。

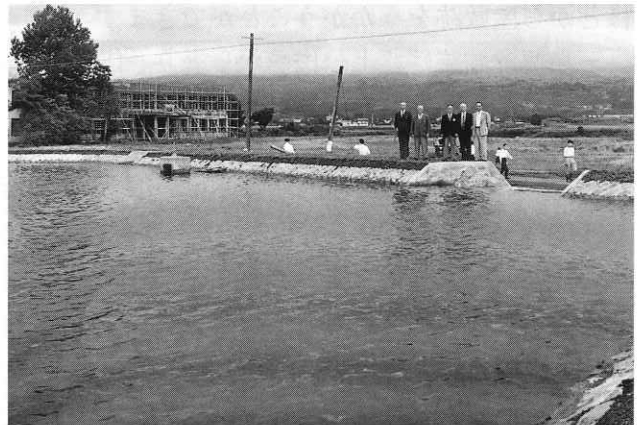


玉沢と桑原の境で道標確認

三島市郷土資料館 企画展

「なかざと村（中郷村）」

中郷地域は三島市の南部に広がる水田地帯です。ここは明治22年市町村制制定の時に近在の16ヶ村が集まり「中郷村」が成立しました。古代、この地域一帯が「中の郷」と呼ばれていた事により村名となりました。昭和29年4月に三島市と合併するまでの約65年間、中郷村の人々は米の増産に励み、水害と戦い、オテンノウサンなどの祭りを楽しみました。中郷村の時代を中心に、その歴史・民俗・文化財と共に農村の素朴なつながりと信仰を紹介し、現在に至るまでの変貌を振り返ります。



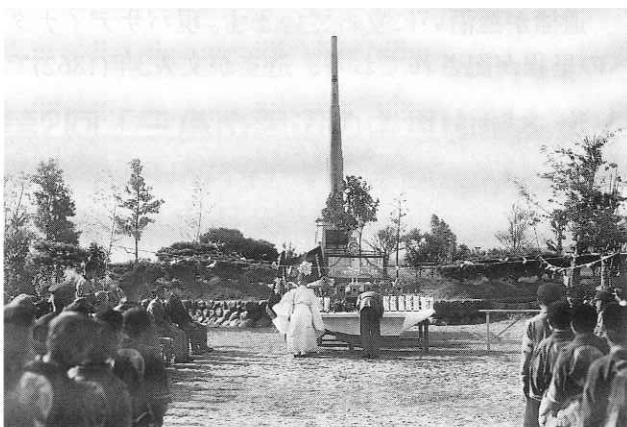
中郷 温水池

展示期間 平成12年3月19日(日)～5月28日(日)
(休館日 月曜日)

展示会場 三島市郷土資料館 1階 企画展示場
(楽寿園内)

- 展示内容**
- (1)中郷村16ヶ村の歴史
 - (2)水との戦い（中郷用水、狩野川・大場川の洪水）
 - (3)中郷村の祭りと民俗（オテンノウサン、神社の祭り、敬神講、子供の祭り、年中行事）
 - (4)コンビナート反対運動
 - (5)写真と地図で振り返る中郷地域の変貌

中郷村の水田の多くは、小浜池の湧水を用として引き、利用しています。しかし、湧水の水温が14°～15°と低いため、稲の成育が良いとはいえませんでした。そこで、戦後、用水を一度貯水して温め、ここから分水する工事が始まりました。こうして完成したのが中郷温水池、昭和27年（1952）のことです。温水池によって水温が2度上がったといわれています。



中郷村 忠魂碑（中郷小）

日清戦争以降の中郷村出身の戦没者を祀る塔で、砲身を直立させた特異な形式の碑でした。

現在の中郷小学校運動場の北東隅に昭和の初めに建てられましたが、戦後占領軍の目を恐れ、村民によって取り壊され埋められました。この写真は、碑の建立時の慰霊祭の風景と思われます。



中郷村・三島 合併祝賀会

中郷村と三島市が合併したのは昭和29年（1954）4月1日でした。数年前から合併に向けての話し合いが続きましたが、反対する村民の声も根強く、合併に至る道は困難を窮めたようです。合併が決定し、祝賀式場へ向かう人々にほっとした表情が見えます。

博物館紹介

～郷土資料館運営協議会委員 研修視察の報告1～

入間市博物館 —ALIT—

開館 1994 (平成6年)

去る9月11日、教育関係者及学識経験者で組織する郷土資料館の運営協議会委員の研修視察として、埼玉県の入間市博物館を訪問し、先方の職員の方々と博物館にかかわる意見交換と親睦を深めてきました。



博物館 表玄関

入間市は埼玉県南部にあり狭山丘陵にまたがる、人口約14万5千人の田園都市です。江戸時代以来、狭山茶の主産地として有名で、埼玉県茶業試験場もおかれています。武蔵野の面影をのこす自然環境にめぐまれ、戦前には陸軍航空士官学校、戦後は航空自衛隊の入間基地がおかれますが、近年宅地化と工業化がすすみ人口が増加しています。このように三島市と人口規模、近代史での位置付け等の類似点がみられ、近年開館したことから視察に訪問しました。



バリアフリーの展示室

この博物館は、入間の自然と歴史、茶の世界、こどもの科学室の各コーナーを中心に、体験しながら理解ができるよう工夫され、施設がバリアフリーになっています。いわゆる総合博物館ですが、ALIT—Art・Archives (美術館・文書館)、Library (図書や映像ソフト)、Information(情報センター)、Tea(お茶の研究)として、市民の多様なニーズにこたえられる機能を兼ね備えています。とくに狭山茶の主産地として、狭山茶をはじめ、日本各地や世界のお茶の製造・喫茶風習などお茶文化について調査研究を行っています。

短時間でしたが、お忙しいなか歓迎していただき感謝しております。今回の視察を活かし、郷土資料館の運営や普及方法に生かしていきたいと思っております。



入間市博物館館長のご挨拶に始まった研修会

入間市博物館 —ALIT—

住 所/ 埼玉県入間市二本木100

電 話/0429-34-7716

開館時間/9:00～17:00

入 場 料/大人200円・小・中学生50円

休 館 日/月曜日・年末年始・毎月第4火曜日

茶室・レストラン・広場・駐車場があります

(三島からは、中央自動車道経由で八王子ICより国道16号線で北へ。片道約2時間半)

◆新収蔵資料

郷土資料館に次の方々から
ご寄贈いただきました。
ご協力ありがとうございます
ございました。(敬称略)

平成11年4月～10月

小針 国明 三島市塚原新田
糸車 1点
座くり 1点
看板 富士屋自動車 1点
警防団 木札 1点
電話機 昭和前期 1点

剛力 重雄 三島市加茂川町
蚊帳 昭和23年頃 1点

埜瀬 晃 三島市川原ヶ谷
戸長役場文書 5点

松田 三男 三島市東町
市内写真 昭和20～30年代 24点

増田 ひで子 三島市加茂川町
市婦人連盟記念誌 昭和56年 1点
婦人連盟作成プレート 1点

伊出 栄一 三島市大宮町
謄写版セット 昭和40年代 1点

藤田 久夫 三島市谷田並木
唐箕 昭和27年製 1点

鈴木 国雄 三島市日の出町
ゴミ箱(コンクリート製) 1点

堀池 茂 三島市南二日町
こたつ 1点
茶釜 1点
牛乳缶 戦後 1点
牛乳入れ 1点
分銅 1点
建築水盛缶 1点
イモツキ 1点
棹秤 1点
カワザライ(鋤簾) 1点
滑車 1点
千歯 1点
縄張り棒 戦後 1組
電蓄スピーカー 昭和初期 1点
レコードプレーヤー 昭和初期 1点
たんす 文久3年 1点

◎資料館の行事予定◎

★講演会★

平成12年1月22日(土)

14:00～16:00

「富士・愛鷹・箱根山麓の 縄文時代」

～千枚原遺跡と縄文時代のまつり～

講師 日本考古学会会員

瀬川 裕市郎氏

縄文時代の信仰と祀りを三島市の千枚原遺跡を通じて紹介します。

於：三島市民生涯学習センター
3階 講義室(定員150名)

※当日、ご参加下さい。

問合せ：三島市郷土資料館

(下記連絡先まで)

★企画展★

3月19日(日)～5月28日(日)

「なかざと村(中郷村)」

昭和29年に合併した中郷村の歴史・民俗・文化財等を広く紹介します。

於：三島市郷土資料館

1階 企画展示室

利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、
12月27日～1月2日)

開館時間 午前9時～午後4時30分(11/1～3/31まで)

入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより No.65

発行日 平成12年(2000)1月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036 三島市一番町19-3
楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

発行 三島市教育委員会